

## 1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
保健体育									
レクリエーション実技 I	30						30	1	◎
基礎分野計	30						30	1	

## 2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
運動学									
基礎運動学 I	45						45	2	◎
小計	45						45	2	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
リハビリテーション概論 I	30						30	2	◎
小計	30						30	2	
専門基礎分野合計	75						75	4	

## 3 専門分野

科目	1年次		2年次		3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎理学療法学									
理学療法学概論	15						15	1	◎
小計	15						15	1	
理学療法評価学									
理学療法評価学Ⅲ			60				60	2	◎
小計			60				60	2	
理学療法治療学									
日常生活活動学 I			30				30	1	◎
運動療法学			60				60	2	◎
理学療法総合演習 I			60				60	2	◎
小計			150				150	5	

## 4 選択科目

レクリエーション概論		15					15	1	◎
小計		15	0				15	1	
総合計	120	15	210				345	14	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。

臨床実習にあつては1単位を40～45時間とし、合計21単位840～945時間で構成される。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技 I (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を学ぶ。

◇到達目標

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義演習	
第2回	レクを楽しむ	講義演習	
第3回	健康観	講義演習	
第4回	ウォーキングトライ 300	講義演習	
第5回	アイサポート運動	講義演習	
第6回	野外スポーツ(スカイクロス)	講義演習	
第7回	野外スポーツ	講義演習	
第8回	生涯スポーツ 1	講義演習	
第9回	生涯スポーツ 2 (記録)	講義演習	
第10回	生涯スポーツ 3	講義演習	
第11回	車いすバスケ	講義演習	
第12回	車いすバスケ	講義演習	
第13回	音楽療法	講義演習	
第14回	音楽療法	講義演習	
第15回	レポートテスト	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (       %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 100%) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input type="checkbox"/> レポート (       %) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎運動学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	萬喜 佐知江	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

関節学総論では、人体における3種類の骨の連結と代表例を学ぶ。関節の一般構造・付属装置についても学び、関節の構造がイメージできる様に、また、自分で説明できる様になるまで、学ぶ。  
 関節学各論では、各々の下肢の連結の構造を学び、構造を理解した上で、骨運動の動きと関節包内運動の動きを学ぶ。

◇到達目標

1. 人体における3つの連結を理解し、代表例をあげて説明できる。
2. 下肢の連結の構造を理解し、説明できる。
3. 下肢の連結の構造を理解した上でどの様な動きが生じるか説明できる。
4. 骨運動と関節包内運動においては、骨標本を使用し、説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	関節学総論（骨の連結：線維性連結・軟骨性連結・滑膜性連結）	講義	P. 87～89
第2回	関節学総論（滑膜性連結：関節の一般構造と付属装置）	講義	P. 89～90
第3回	関節学総論（関節の3つの分類：骨の数・運動軸の数・関節面の形状）	講義	P. 90～92
第4回	関節学総論（関節の機能・関節包内運動）	講義	P. 92～101
第5回	関節学総論（予備日）	講義	
第6回	関節学各論（下肢の連結①：下肢帯の連結の構造）	講義	P. 128～130
第7回	関節学各論（下肢の連結①：下肢帯の連結の動き）	講義・実技	P. 128～130
第8回	関節学各論（下肢の連結②：股関節の構造）	講義	P. 130～133
第9回	関節学各論（下肢の連結③：股関節の動き）	講義・実技	P. 130～133
第10回	関節学各論（下肢の連結④：膝関節の構造）	講義	P. 133～137
第11回	関節学各論（下肢の連結⑤：膝関節の動き）	講義・実技	P. 133～137
第12回	関節学各論（下肢の連結⑥：脛骨と腓骨の連結の構造）	講義	P. 137～138
第13回	関節学各論（下肢の連結⑦：脛骨と腓骨の連結の動き）	講義・実技	P. 137～138
第14回	関節学各論（下肢の連結⑧：距腿関節の構造）	講義	P. 138～139
第15回	関節学各論（下肢の連結⑨：距腿関節の動き）	講義・実技	P. 138～139
第16回	関節学各論（下肢の連結⑩：距骨下関節・距踵舟関節の構造）	講義	P. 139～142
第17回	関節学各論（下肢の連結⑪：距骨下関節・距踵舟関節の動き）	講義・実技	P. 139～142
第18回	関節学各論（下肢の連結⑫：踵立方関節・楔舟関節・楔立方関節の構造・動き）	講義・実技	P. 142

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第19回	関節学各論（下肢の連結⑬：足根中足関節・中足間関節の構造・動き）	講義・実技	P. 142～143
第20回	関節学各論（下肢の連結⑭：中足趾節関節・趾節間関節の構造・動き）	講義・実技	P. 142～143
第21回	関節学総論（下肢の連結⑮：足のアーチについて）	講義	
第22回	総まとめ（今までの振り返り）	講義	
第23回	試験・解説		

評価方法	■試験（ 80%） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 20%） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 中山書店 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 配布プリント
参考図書	カパンディ 関節生理学 I II III 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 協同医書出版 関節・運動器の機能解剖 上肢・下肢編 医歯薬出版
留意事項	必ず、講義後学習として、90分の復習を行う事。また、講義前学習として、講義前に、前回の復習含めて90分行う事。 講義の最初に前回分の小テスト（成績に入る）を実施する。小テストが60%未満の場合は、金曜日の放課後に補習時間をもうけ、60%以上になるまで確認の小テストを行う。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	田守 康彦 (他、複数教員)	1	2	前期	必修 選択

◇講義概要

リハビリテーション概論では、近年リハビリという言葉は一般的によく使用されるようになったが、疾病などによって生じた障がいに対する機能回復のための治療・練習の狭い部分を指すのではなく、リハビリテーション本来の定義・理念を歴史的背景も含めて講義する。また障がいの理解を深め、かつ他職種の理解を行いチームアプローチについても学ぶ。

◇到達目標

- ・リハビリテーションの理念・定義を理解することができる。
- ・リハビリテーションの4領域について説明することができる。
- ・障害の心理や家族心理、障害受容について説明することができる。
- ・心身機能・身体構造・活動・参加・背景因子（環境因子および個人因子）について説明することができる。
- ・理学療法の対象となる障がいについて、ICIDH、ICFの概念を理解し、基本的にICF分類することができる。
- ・ADL、IADL、QOLの違いを説明し、その評価法を説明できる。
- ・他職種の役割、位置づけなどを理解し、チームの一員としての自覚を持つことができる。
- ・社会保障制度の種類について列挙できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの理念・歴史・定義 リハビリテーションの4分野	講義	田守
第2回	ノーマライゼーション・ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて	講義	田守
第3回	廃用症候群・過用症候群・誤用症候群について	講義	田守
第4回	疾患と障害の関係（ICIDH・ICFについて）	講義	長坂
第5回	疾患と障害の関係（ICIDH・ICFについて）障がいの理解（演習）	講義	長坂
第6回	ADL,QOLの概念と評価法 日常生活を支援する車椅子、装具、福祉用具について	演習	長坂
第7回	医療・福祉と法律	講義	米田
第8回	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	演習	米田
第9回	専門種連携・合同授業（6/25午前）	講義	グループワーク
第10回	専門種連携・合同授業（6/25午前）	講義	グループワーク
第11回	看護師の業務と理学療法士との関わり（看護学科教員による）	講義	萬喜
第12回	介護福祉士の業務との理学療法士の関わり（介護福祉学科教員による）	講義	萬喜
第13回	言語聴覚療法と言語聴覚療法士（言語聴覚士教員による）	講義	萬喜
第14回	作業療法と作業療法士（作業療法士教員による） チームアプローチ（私たちの大切な医療チーム（他職種の理解）まとめ	講義	萬喜
第15回	筆記試験	試験	

令和7年度 理学療法学科 シラバス

評価方法	■試験 ( 90 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (        %)

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療者</li> <li>・配布資料</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入門リハビリテーション概論 第7版, 医歯薬出版株式会社</li> <li>・医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版, 永井書店</li> <li>・国際生活機能分類 世界保健機関 (WHO), 中央法規</li> <li>・理学療法概論テキスト 第4版, 南江堂</li> <li>・PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論, 羊土社</li> <li>・チーム医療を成功させる10か錠, 中山書店</li> </ul>
留意事項	<p>・事前学習・事後学習 (予習・復習)</p> <p>講義の学修内容、学修到達目標を確認し、事前に配布資料やテキストなどで90分予習をしてから講義に臨んでください。</p> <p>事後学習として講義終了後に必ず90分の復習を行い、理解できたこと、できなかったことを整理、書き出しを行い、教員に質問してください。</p> <p>※レポート課題は試験開始前に回収する。</p> <p>※状況により、講義内容の順番が入れ替わることもある。</p>

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	田守 康彦	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

理学療法学概論とは、理学療法について理解を深める講義である。理学療法を理解する上で必要な関係法規や職域、理学療法士になる上で必要な教育内容、基本的な理学療法の過程等を学ぶ。

◇到達目標

- ・理学療法の定義、歴史などを理解し説明することができる。
- ・理学療法の対象と領域を説明することができる。
- ・理学療法の実施過程を理解し、説明することができる。
- ・理学療法士に必要な資質を理解し、説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	理学療法士に求められる資質について 理学療法士に求められる要素	講義	田守
第2回	理学療法の定義と理学療法士に関する法律	講義	田守
第3回	理学療法の歴史 理学療法の役割①:理学療法士に求められる使命と倫理	講義	田守
第4回	理学療法の役割②:理学療法の対象と領域について	講義	田守
第5回	理学療法の実施過程(理学療法プロセス)について	講義	田守
第6回	理学療法士の活躍フィールドについて	講義	田守
第7回	理学療法士の職能:日本や世界での理学療法 理学療法(士)教育について	講義	田守
第8回	試験	試験	田守

評価方法	■試験 ( 90%)	□実技試験 ( %)	□演習評価 ( %)
	■小テスト ( 10%)	□レポート ( %)	□その他 ( %)

教科書	・シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第4版, 南江堂
参考図書	・PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論, 羊土社 ・PT 入門 イラストでわかる 理学療法概論, 医歯薬出版株式会社 ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論, 中山書店 ・理学療法概論 第7版, 歯薬出版株式会社 ・標準理学療法 専門分野 理学療法概説, 医学書院
留意事項	・事前学習・事後学習(予習・復習) 講義の学修内容および学修到達目標を確認し、事前に配布資料やテキストなどで90分予習をし講義に臨むこと。事後学習として講義終了後に90分の復習を行い、疑問点は教員に質問をすること。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅲ (実務経験のある教員等による授業科目)	田守 康彦 ・ 米田 文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患や障害に対して適用される神経系の各検査と測定の意味・目的を理解する。実技を通して種々の機能障害を把握するための基本的な知識や技術を修得する。理学療法士が行う検査測定結果から臨床推論への基本的な流れが展開できる素地を養う。

◇到達目標

- ・ 理学療法評価における神経学的検査の意味・目的と評価方法について説明できる。
- ・ 神経系の異常による機能障害の程度と関連要因を把握するために必要となる基本的な評価項目を選択することができる。
- ・ 講義で学んだ神経学的検査を安全に実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当
第1回	オリエンテーション,感覚検査(総論)①	講義	米田
第2回	感覚検査②:表在感覚	講義・実技	米田
第3回	感覚検査③:深部感覚	実技	米田
第4回	感覚検査④:複合感覚	実技	米田
第5回	反射検査①	講義	米田
第6回	反射検査②	実技	米田
第7回	筋緊張検査①	講義	米田
第8回	筋緊張検査②	実技	米田
第9回	片麻痺機能検査(総論)①	講義	米田
第10回	片麻痺機能検査② BRST: I～II	実技	米田
第11回	片麻痺機能検査③ BRST: III	実技	米田
第12回	片麻痺機能検査④ BRST: IV～VI	実技	米田
第13回	平衡機能検査①	講義	田守
第14回	平衡機能検査②	実技	田守
第15回	バランス検査①	講義	田守
第16回	バランス検査②	実技	田守
第17回	協調性検査①	講義	田守
第18回	協調性検査②	実技	田守
第19回	脳神経検査①	試験	田守
第20回	脳神経検査②	試験	田守

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第21回	実技試験	試験	複数教員
第22回	実技試験	試験	複数教員
第23回	脳神経検査③	講義・実技	田守
第24回	脳神経検査④	講義・実技	田守
第25回	高次脳機能検査①	講義・実技	田守
第26回	高次脳機能検査②	講義・実技	田守
第27回	高次脳機能検査③	講義・実技	田守
第28回	高次脳機能検査④	講義・実技	田守
第29回	失語症①(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST学科教員
第30回	失語症②(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST学科教員
第31回	定期試験	試験	米田

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (           %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 ( 20% ) <input type="checkbox"/> 演習評価 (           %) <input type="checkbox"/> 小テスト (           %) <input type="checkbox"/> レポート (           %) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 定期試験 80% )
------	--

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理学療法評価学 改訂第6版. 金原出版株式会社</li> <li>・ 理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂</li> <li>・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版. 南山堂</li> <li>・ 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版. MEDIC MEDIA</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版. MEDICAL VIEW</li> <li>・ 実験医学別冊 改訂版 もっとよくわかる! 脳神経科学. 羊土社</li> <li>・ 理学療法評価学 第3版 (標準理学療法学 専門分野). 医学書院</li> <li>・ 理学療法評価学テキスト 改訂第2版. 南江堂</li> <li>・ 理学療法評価学 (Crosslink 理学療法学テキスト). MEDICAL VIEW</li> </ul>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脳・神経系の理解が必要となるため、必ず解剖学や生理学の復習をしておくこと。</li> <li>・ 実技があるため、Tシャツや短パンを常に準備しておくこと。</li> <li>・ 講義前・後に解剖学や生理学で学んだ知識と照らし合わせること(約30分)。</li> <li>・ 予習・復習を行うこと(約60分)。</li> </ul>

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日常生活活動学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂 俊昌	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

<p>日常生活動作の概念を理解する。 日常生活動作の評価について理解する。 日常生活動作に関わる環境因子について理解する。</p>
---

◇到達目標

<p>日常生活活動の概念を説明し、生活機能における位置づけが説明できる 日常生活活動の評価が実施できる 日常生活活動における環境因子（人的、物理的）を理解し、指導に活用することができる。</p>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADLの位置づけ・概念・範囲	講義	
第2回	ICFとADL（ADL指導）ADL評価と歴史・目的・実用性	講義	
第3回	時期別意義・さまざまなADL評価	講義	
第4回	B I 評価方法	講義	
第5回	F I M 評価方法	講義	
第6回	F I M 評価方法	講義	
第7回	基本動作概論	講義	
第8回	基本動作各論 各動作意義 介助法など	講義・実技	
第9回	リハ支援機器 概論	講義	
第10回	松葉杖指導	講義・実技	
第11回	歩行器・車椅子・自助具など	講義・実技	
第12回	複合動作指導 概論	講義	
第13回	各種杖の使用方法など	講義・実技	
第14回	車椅子基本構造 操作など	講義・実技	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（      %） <input type="checkbox"/> 演習評価（      %） <input type="checkbox"/> 小テスト（      %） <input type="checkbox"/> レポート（      %） <input type="checkbox"/> その他（      %）
------	---

教科書	日常生活活動（ADL） 千住秀明 神陵文庫 脳卒中の機能評価 S I A SとF I M
参考図書	ADLとその周辺 伊藤利之 医学書院 理学療法ハンドブック 協同医書 など
留意事項	実技を行う場合は、ふさわしい服装で受講すること。予習復習に努めること。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動療法学 (実務経験のある教員等による授業科目)	歌川 貴昭・熊澤 浩一	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を復習・整理する。
2. 各種障害に対する基本的運動療法の意義・理論・実際を学ぶ。

◇到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を使用することができる。
2. 各種障害に対する運動療法について、目的・方法・効果を医学的根拠に基づいて述べることができる。
3. 健常者に対して、基礎的な運動療法を実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、運動療法の基礎・リスク管理	講義	熊澤
第2回	関節可動域制限に対する運動療法（目的、関節運動、病態と原因など）	講義	熊澤
第3回	姿勢障害に対する運動療法（姿勢の定義・評価）	講義・実習	歌川
第4回	姿勢障害に対する運動療法（体幹の安定性）	講義・実習	歌川
第5回	基本動作能力障害に対する運動療法（寝返り・起き上がり）	講義・実習	歌川
第6回	基本動作能力障害に対する運動療法（立ち上がり）	講義・実習	歌川
第7回	歩行障害に対する運動療法（歩行バイオメカニクス）	講義	歌川
第8回	歩行障害に対する運動療法（動作観察・分析）	講義・実習	歌川
第9回	持久力低下に対する運動療法（持久力の生理学的メカニズム）	講義	歌川
第10回	持久力低下に対する運動療法（評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第11回	コンディショニング、全身調整運動（循環調節）	講義・実習	歌川
第12回	バランス障害に対する運動療法（バランス障害の定義・評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第13回	協調性運動障害に対する運動療法（協調性障害の定義・障害理解）	講義	歌川
第14回	協調性運動障害に対する運動療法（重錘・弾性包帯・体操）	講義・実習	歌川
第15回	関節可動域制限に対する運動療法（評価のポイント、禁忌・注意点）	講義・実習	熊澤
第16回	関節可動域制限に対する運動療法（運動療法の種類と意義）	講義・実習	熊澤
第17回	関節可動域制限に対する運動療法（ストレッチング、二関節筋）	講義・実習	熊澤
第18回	関節可動域制限に対する運動療法（様々なストレッチング）	講義・実習	熊澤
第19回	筋力低下に対する運動療法（骨格筋の機能、筋力規定因子、原因、様式）	講義・実習	熊澤
第20回	筋力低下に対する運動療法（3大原理、トレーニングの種類など）	講義・実習	熊澤
第21回	筋力低下に対する運動療法（OKC、CKC）	講義・実習	熊澤
第22回	筋力低下に対する運動療法（スクワット、スロートレーニングなど）	講義・実習	熊澤
第23回	運動連鎖と姿勢（分類と機能・下肢荷重連鎖）	講義・実習	熊澤

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第24回	痛みに対する運動療法	講義	熊澤
第25回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	講義	歌川
第26回	感覚障害に対する運動療法	講義	歌川
第27回	腎機能障害に対する運動療法	講義・実習	歌川
第28回	火傷の運動療法	講義・実習	歌川
第29回	加齢による機能障害に対する運動療法（加齢による生理的変化）	講義	歌川
第30回	加齢による機能障害に対する運動療法（運動療法）	講義・実習	歌川

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（      %） <input type="checkbox"/> 実技試験（      %） <input type="checkbox"/> 演習評価（      %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（20%） <input type="checkbox"/> レポート（      %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（定期試験 80%） ※再試験があった場合は、再試験のみで評価する
------	--

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学 石川朗 編 中山書店
参考図書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明 編 文光堂 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 吉尾雅春 編 医学書院 運動療法学 柳澤健 編 金原出版 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 対馬栄輝 編 MEDICAL VIEW IDストレッチング 鈴木重行 編 三輪書店 病気が見える vol.7 脳・神経 メディックメディア
留意事項	※ 各回の該当する運動療法学概論（運動療法学総論の教科書）事前に復習しておくこと（約30分） ※ 講義後にテキスト、講義資料を用い復習をおこなうこと（約60分） ※ 服装は学校指定ジャージ、半袖・短パン等で筋や関節が露出できるようにしてください

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂俊昌・田守康彦・歌川貴昭・米田文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

講義・演習を通じて直接的、間接的情報収集の意義・目的を理解し、実施に必要な知識・技能・態度を習得する。

◇到達目標

- ・ 間接的、直接的情報収集の意義目的の理解、実施に必要な知識・技能・態度の習得
- ・ 理学療法過程について理解できる。
- ・ 評価計画が立案できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 理学療法の職業理解について	講義	長坂
第2回	理学療法過程 疾患の調べ方について	演習	複数教員
第3回	疾患理解について	演習	長坂
第4回	初期仮説立案 (情報の着眼点について)	講義	複数教員
第5回	間接的情報収集について	講義	歌川
第6回	カルテからの情報収集	演習	複数教員
第7回	バイタルサイン	講義	田守
第8回	徒手筋力検査法	演習	田守
第9回	形態計測演習	講義	歌川
第10回	関節可動域測定演習	演習	歌川
第11回	反射検査演習	講義	田守
第12回	感覚検査演習	講義	複数教員
第13回	医療面接	講義	長坂
第14回	復習	講義	長坂
第15回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第16回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第17回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第18回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第19回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第20回	評価計画最終調整	演習	複数教員
第21回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂
第22回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第23回	評価実践	講義	複数教員
第24回	評価実践	演習	複数教員
第25回	評価実施後指導 情報整理	講義	複数教員
第26回	評価実施後指導 情報整理	演習	複数教員
第27回	OSCE 演習	講義	田守
第28回	OSCE 演習	演習	歌川
第29回	OSCE 演習	講義・演習	米田
第30回	見学実習Ⅱ直前ワーク	講義・演習	複数教員
第31回	定期試験	講義	長坂

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験(     %) <input type="checkbox"/> 実技試験(     %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価(30%) <input type="checkbox"/> 小テスト(     %) <input type="checkbox"/> レポート(     %) <input checked="" type="checkbox"/> その他( 定期試験 70%)
------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版. 金原出版</li> <li>・講義資料(講義中に配布する)</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践編 ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 第2版. 文光堂</li> <li>・理学療法評価法学 改定第6版. 金原出版</li> <li>・図解 理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂</li> <li>・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版. 南山堂</li> <li>・統合と解釈がよくわかる 実践! 理学療法評価学. 医歯薬出版</li> <li>・ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—. 中央法規</li> <li>・理学療法ハンドブック 改訂第4版(第1~4巻). 協同医書出版社</li> <li>・理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院</li> </ul>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習を想定し、ケーシー・学校指定シューズを着用の上、身だしなみを整えて受講すること。</li> <li>・予習・復習を行うこと。</li> </ul>
備考	

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーションの意義・役割を理解する。
----------------------

◇到達目標

レクリエーションの概論が理解できる
-------------------

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション概論について	講義・演習	
第2回	楽しさと心の元気づくりの理論(集団心理とレク支援)	講義	
第3回	レクリエーション支援理論について(集団の特性と支援方法)	講義	
第4回	レクリエーション支援の方法(リーダー研修)	演習	
第5回	レクリエーション支援の方法(リーダー研修)	演習	
第6回	現場でのレクリエーション支援	演習	
第7回	レクリエーションの支援の方法	講義演習	
第8回	レクリエーションの支援の方法	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (       %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 100%) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input type="checkbox"/> レポート (       %) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます レク認定資格授業あり(費用 500 円)